

国立大学法人鹿屋体育大学の平成22年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

鹿屋体育大学は、全国でただ一つの国立の体育大学という特性を十分に活かし、健全な身体と調和・共生の精神を併せ持つ人材の育成に必要なスポーツ・身体運動を通じて、創造性とバイタリティに富む有為の人材を輩出するとともに、スポーツ科学・体育学領域における学術・文化の発展と国民の健康増進に貢献し、もって健全で明るく活力に満ちた社会の形成に寄与することを目指している。第2期中期目標期間においては、スポーツ・健康に関する理論と実践による質の高い教育と、充実した教養教育・専門教育を実施し、豊かな教養、確かな学力、優れた技能、果敢な行動力を備え、個性に溢れ、人間的魅力に満ちた高度な専門職業人を育成することを目指している。

この目標達成に向けて、教育研究活動の基盤となる教員組織を大学に置く3系へ再編する見直しの実施、育てる人材像（一般目標）と具体的な人材像（行動目標）を内容とする教育プログラムに基づく教育方法について検討を進めているなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

業務運営については、「学長と若手事務職員との懇談会」を開催し、意欲ある若手職員からの声を直に聞くなど、ボトムアップによる大学運営に取り組んでいる。

その他業務運営については、鹿屋市、鹿屋市観光協会と連携した「産学官連携によるスポーツ合宿まちづくり推進事業」として、プロ野球選手の自主トレーニングを受け入れ、設備提供や測定等でサポートしている。

教育研究等の質の向上については、トップレベルの指導者を目指すトップアスリートを対象に、スポーツ科学等の知見や支援を自由に駆使しながら世界で戦えるプロフェッショナルなコーチを育成する教育プログラムの開発を目指している。

2 項目別評価

1. 業務運営・財務内容等の状況

（1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成22年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 「学長と若手事務職員との懇談会」を開催し、意欲ある若手職員からの声を直に聞くなど、ボトムアップによる大学運営に取り組んでいる。
- 事務系の新規採用職員を対象とした「メンター制度」を導入し、4名を配置して支援を図っている。
- 事務組織再編によるグループ制の定着化や事務効率化等業務改善に向け、5S（先見、スピード、正確、節約、整理）運動を毎月1回行うとともに、事務機能スマート宣言、会議運営化スマート宣言等の企画を打ちだし、組織員の意識の向上を図った上

で、事務効率化を進めている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 13 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- ①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 外部資金獲得のため、平成 22 年 10 月に鹿屋市と包括的な連携に関する協定を締結し、受託研究、共同研究の獲得を目指した鹿屋市産学連携ラボツアーを開催し、地元企業へアピールしている。
- 中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- ①評価の充実、②情報発信等の推進

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- スポーツ分野の実践的研究成果を「スポーツパフォーマンス研究」(ウェブジャーナル)として、ウェブサイトで公表している。
- 「東京サテライトキャンパス」において、文京区民を対象とする公開講座「貯筋運動教室」を開講するなど、多様な活動を展開しているものの、キャンパスの活用方法、情報発信の在り方等を含めて、首都圏におけるさらなる広報活動の充実に向けた取組が期待される。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案し

たことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

〔①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守〕

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 老朽化等解消計画策定時の老朽劣化度の判断となる「劣化判定現地調査シート」を作成し、現地において点検調査を行い、老朽化等解消計画の考え方を盛り込んだ「基本的な方向を示す施設計画（鹿屋体育大学施設整備マスタープラン 2010）」を作成している。
- 空調・照明機器の省エネルギー機器への更新等とともに、「目標・行動計画シート」を全教職員に周知し、温室効果ガスの排出削減を図った結果、基準年度（平成 19 年度）比（目標値△1%／1 年当たり、平成 22 年度は目標値計△3%）4.04%（CO₂111t）を削減している。
- 鹿屋市、鹿屋市観光協会と連携した「産学官連携によるスポーツ合宿まちづくり推進事業」として、プロ野球選手 5 球団 12 名の自主トレーニングを受け入れ、設備提供や測定等でサポートしている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 18 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 教育目標を達成するため、一般目標と行動目標を設定し、授業科目ごとの到達目標及び成績評価の方法を詳細に記載することに改めている。
- トップレベルの指導者を目指すトップアスリートを対象に、大学院修士課程のスポーツ科学等の学識を有し、スポーツ科学等の知見や支援を自由に駆使しながら世界で戦えるプロフェッショナルなコーチを育成する「スポーツキャリア大学院プログラム」に着手し、「海洋スポーツ、特にセーリング種目」に特化した教育プログラムの開発を目指している。
- 国民のライフステージにあわせた貯筋運動プログラムの普及振興に向けた活動について、地元の学校、企業、自治体と共同で実施するとともに、その研究成果を国内外の学会で発表している。

- 鹿屋市委託事業「スポーツ合宿まちづくり推進事業トレーニングサポート」における、プロ野球選手の自主トレーニングにおいて、体組成、運動能力検査等を行い、その結果を「競技力向上を目指すアスリートの科学的サポートプログラム報告書」としてまとめている。
- 心理相談員及び学生相談支援室員による学生相談への対応の他、特にメンタルヘルスに関する心理的相談への対応として、外部臨床心理士を心理カウンセラーとして保健管理センター内に配置し、学生支援体制の充実を図っている。
- 学外で実施する企業ガイダンスのバスツアーを企画し、参加回数を3回に増やすとともに、参加形態を日帰り・宿泊に対応できるよう改善している。